

東福寺周辺エリア

～本町通・泉涌寺～

エリア概要

- 泉涌寺より東福寺、稻荷山（伏見稻荷大社）に及ぶ東山山ろく一帯は、起伏に富んだ地形をなし、山ろくの樹林などの自然が四季のうつろいを表している。
- かつては、本町通以東は、竹林や山ろく部の林地などが悠々と広がっていたが、その後の開発のなかで、社寺地の後背丘陵にまで市街地が形成されていった。

東福寺一帯

東福寺は広大な敷地を有しており、広い境内からは、東山を身近に感じることができる場所がいくつもあり、緑豊かな景観が特徴的である。



境内

東福寺は、多くの塔頭も含め、一体的な景観を形成しており、敷地内に掛かる臥雲橋は、東福寺の景観の一部となっている。



臥雲橋（敷地内通路）



泉涌寺・泉涌寺道周辺

通り沿いには泉涌寺塔頭をはじめとする寺社が点在し、それらの石積を特徴的として、一連の景観を作り上げている。



泉涌寺道

- 視点場（境内）
- 視点場（参道等）
- 特に着目する通り

本町通

平安時代より、京都と伏見、さらには宇治とを結ぶ主要幹線道路として利用され、早くから宅地化したとみられる。現在も、伏見街道の面影を残す町家や農家、商店が点在している。¹⁾



東福寺塔頭

現在、東福寺の塔頭は25箇所存在し²⁾、これらを中心とした緑や擁壁、土塀などが特徴的な地域環境となっている。



正覚庵

東福寺参道

歴史的な町並みや連続する塀・樹木等により、東福寺と一体的な景観を形成している。



参道
（北門からの参道）



参道
（南門からの参道）

泉涌寺道

法性寺

正覺庵

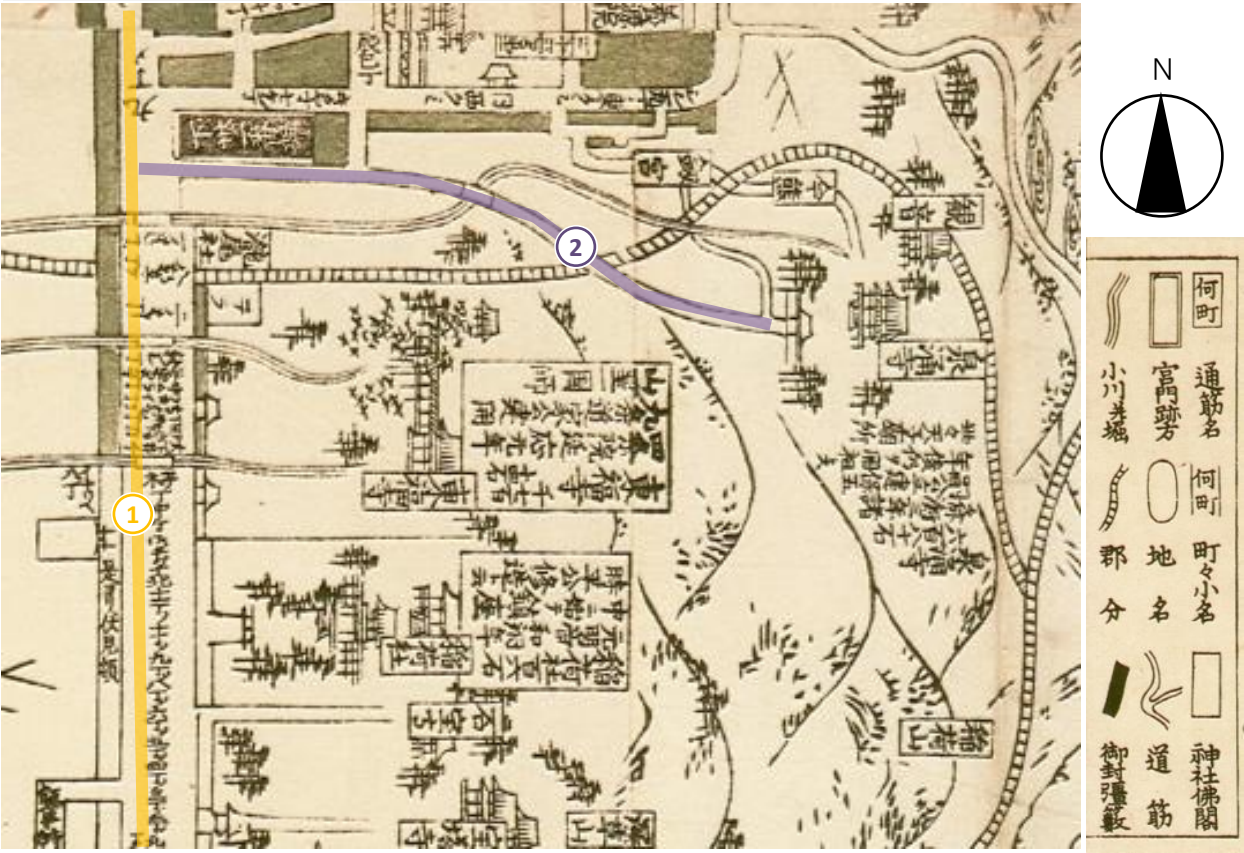
【凡例】

	視点場（境内）		建造物・庭園		樹木
	視点場（参道等）		景観重要建造物・歴史的風致形成建造物		天然記念物
	近景デザイン保全区域		歴史的意匠建造物		保存樹・区民の誇りの木
	特に着目する通り		界わい景観建造物		
	明治25年以前から存在する市街地		京を彩る建物や庭園		
	界わい景観整備地区		文化財（建築物）		
			文化財（史跡・名称）		
			国土地理院社寺データ等		明治16-18年時点の境外
					明治16-18年時点の境内

※ 国土地理院の数値地図2,500に掲載の社寺データと、平成15・16年発行のゼンリン住宅地図の1,000m²以上の社寺データ

エリアの土地利用の変遷(1)

明治2年(1869年)(上地政策による境内地減少前)



京町御絵図(明治2年)

① 本町通

本町通とみられる道がすでに描かれ、通り沿いには、瀧尾社が既に描かれている。
本町通は、古く法性寺域を通過していたことにより、法性寺大路と称されており、⁶⁾旧法性寺の寺名を継ぐものが、現在も本町通の東側にあり、寺門・本堂ともに西面して本町通に向かう。
ただし、法性寺大路の道幅は現在のものよりは広かったと推測されている。この大路が京都と伏見、さらには宇治とを結ぶ主要幹線として、平安時代から利用されていたことは、諸史料の物語るところである。⁷⁾
伏見街道筋にあたるため、沿道の市街化は早く、諸商家が並んだ。⁸⁾本町通沿いの地域は、早く江戸初期に町家地となり、それより西方、鴨川沿いの地域が村方として存続した。⁹⁾

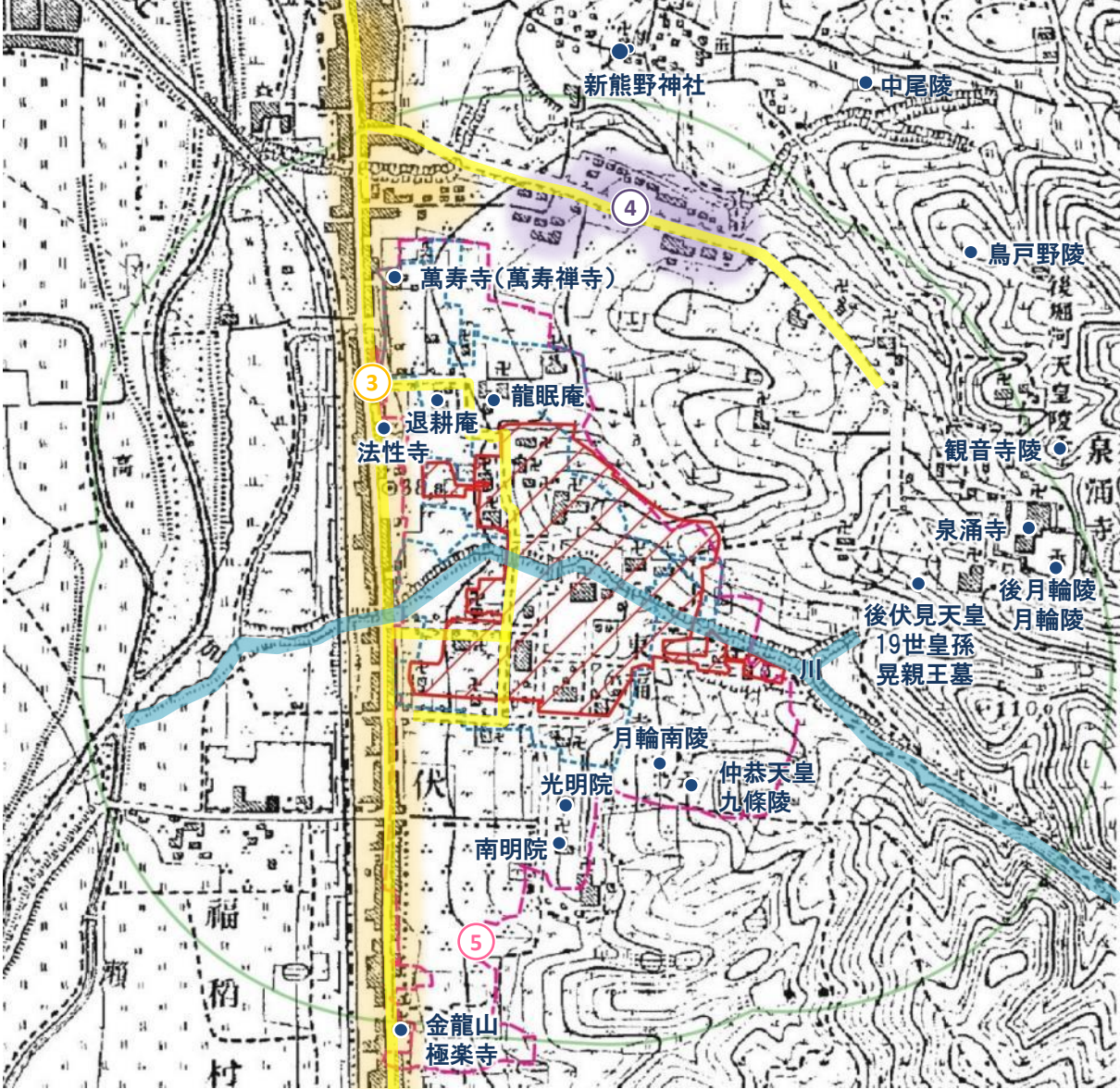
② 泉涌寺道

泉涌寺道らしき道がすでに描かれている。

○ 東福寺・泉涌寺門前

元禄年間までに東福寺門前・泉涌寺門前は存在し、伏見街道（本町通）の開通によって、いっそう町場化を早めた。¹⁰⁾現在の本町11・12・14・15・18～21丁目は、東福寺門前とされていたという。¹¹⁾

明治25年(1892年)



明治16－18年時点の境外地	近景デザイン保全区域
明治16－18年時点の境内地	視点場（境内）
	特に着目する通り

資料：仮製地形図(明治中期)(国土地理院所蔵)
画像：立命館大学アート・リサーチセンター

③本町通

通り沿いには途絶えることなく宅地が連なっていることが分かる。

④泉涌寺道

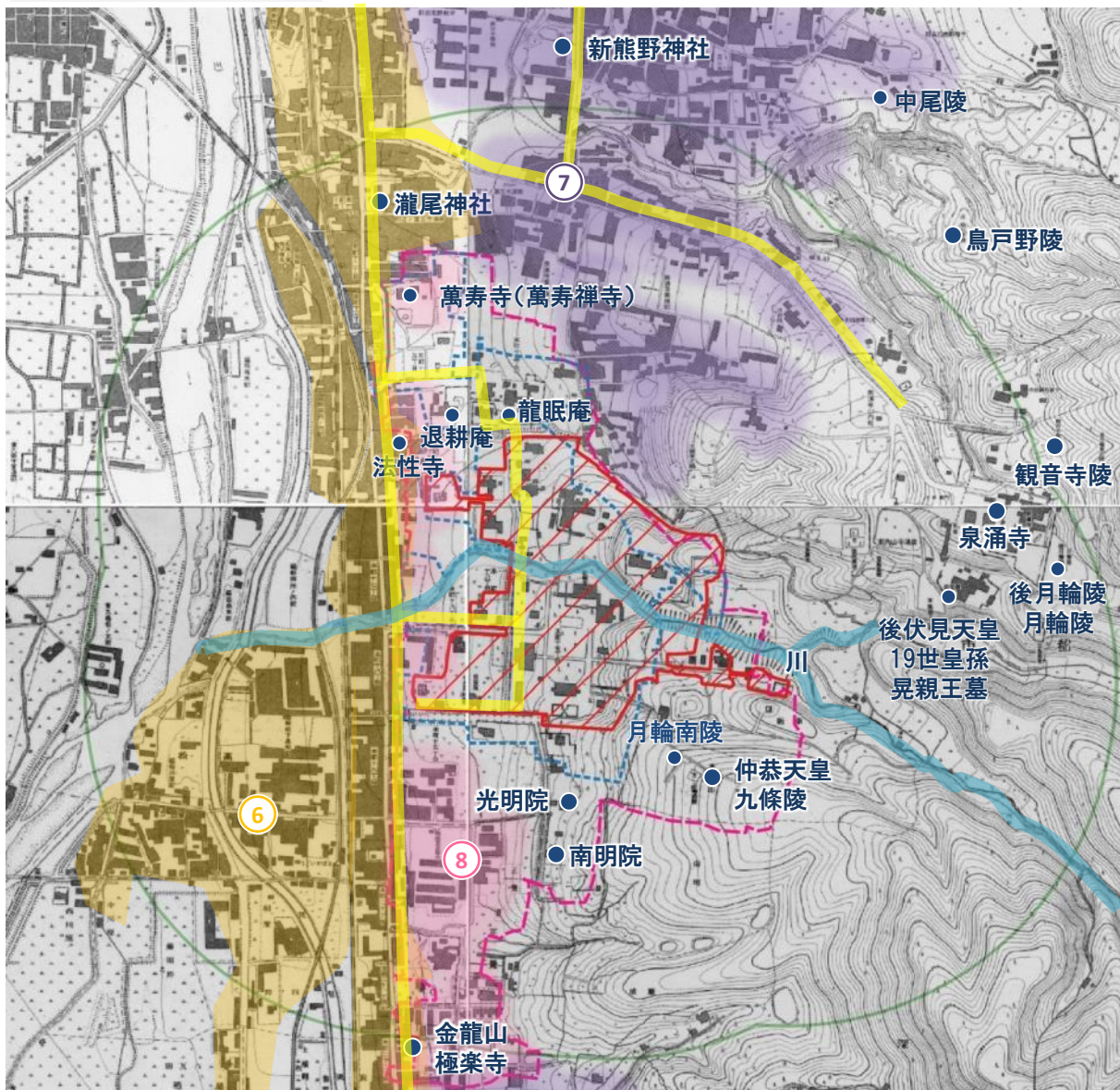
道沿いには宅地が描かれていることが分かる。

⑤東福寺境内

明治16年－18年までは、かなり広範囲が境外地であったことが分かる。

エリアの土地利用の変遷(2)

大正11年(1922年)



資料:京都市都市計画基本図(大正11年)(京都大学文学研究科所蔵)
画像:立命館大学アート・リサーチセンター

⑥本町通

通り沿いには途絶えることなく宅地が連なっており、特に西に向けて宅地化が広がっていることが分かる。

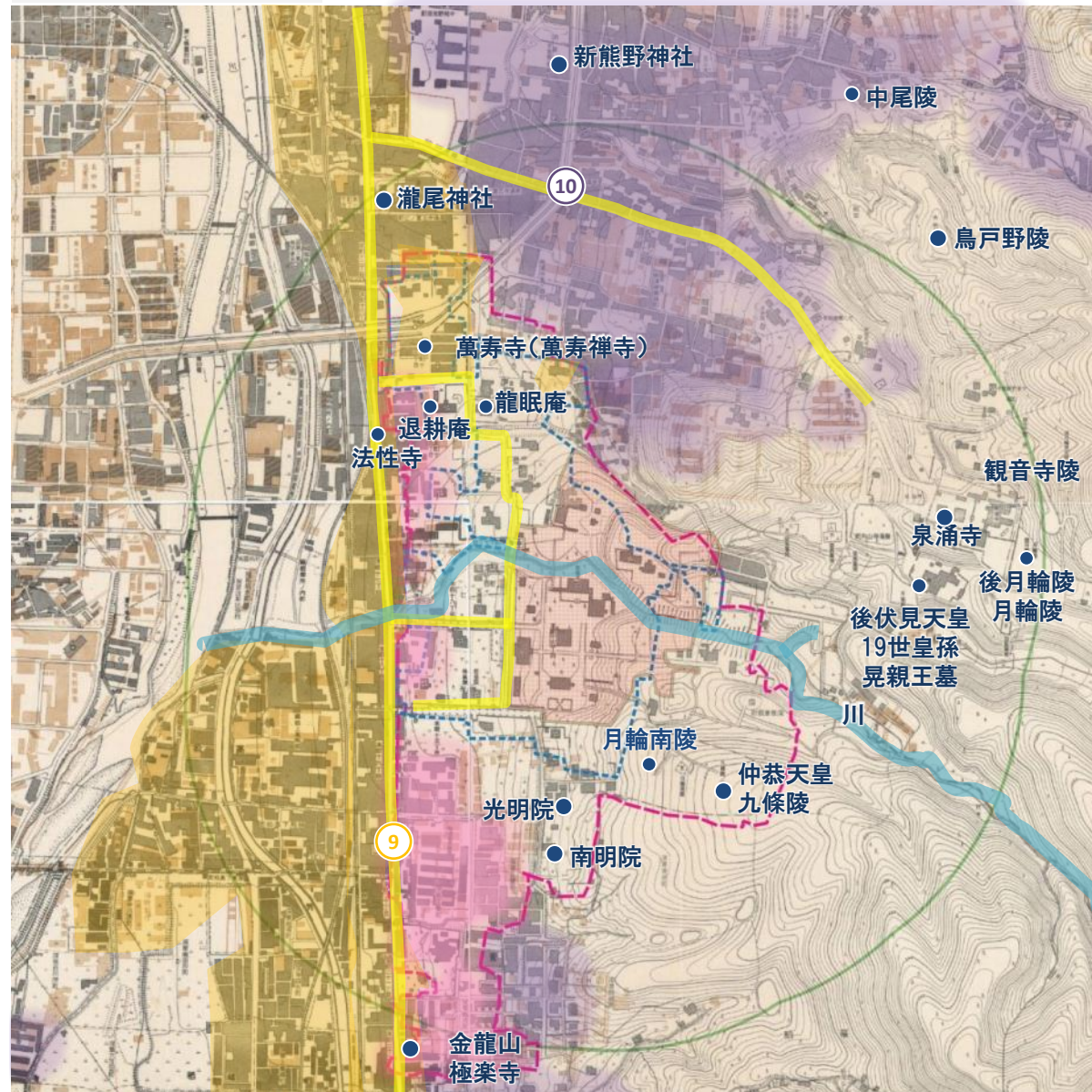
⑦泉涌寺道

道沿いの宅地が広がっていることが分かる。これは、明治39年に、南北の新道（現東大路通）が開通したことが要因とみられる。¹²⁾
大正5年には、泉涌寺付近一帯が京都の有力な陶磁器製造地区としての本格的進出を見るようになったといわれる。¹³⁾

⑧東福寺境内

明治16ー18年までの境内地にも宅地化が見られるようになった。

昭和28年(1953年)



昭和10年都市計画図の内容
昭和28年の修正測図

資料:京都市都市計画基本図(昭和28年)
(京都市都市計画局(京都市指令都企計第90号))
画像:立命館大学アート・リサーチセンター

⑨本町通

西に向けてさらに宅地化が広がっている。

⑩泉涌寺道

道沿いの宅地は、南北にも広がり、広範囲となっている。

※ この地図は、京都市発行の都市計画基本図(縮尺1/3,000)を参考にし、作成したものです。

東福寺

広大な寺域と多数の伽藍・塔頭を要する同寺は、鎌倉時代に前関白九条（九條）道家の発願により、円爾弁円を開基に迎えて建立された。

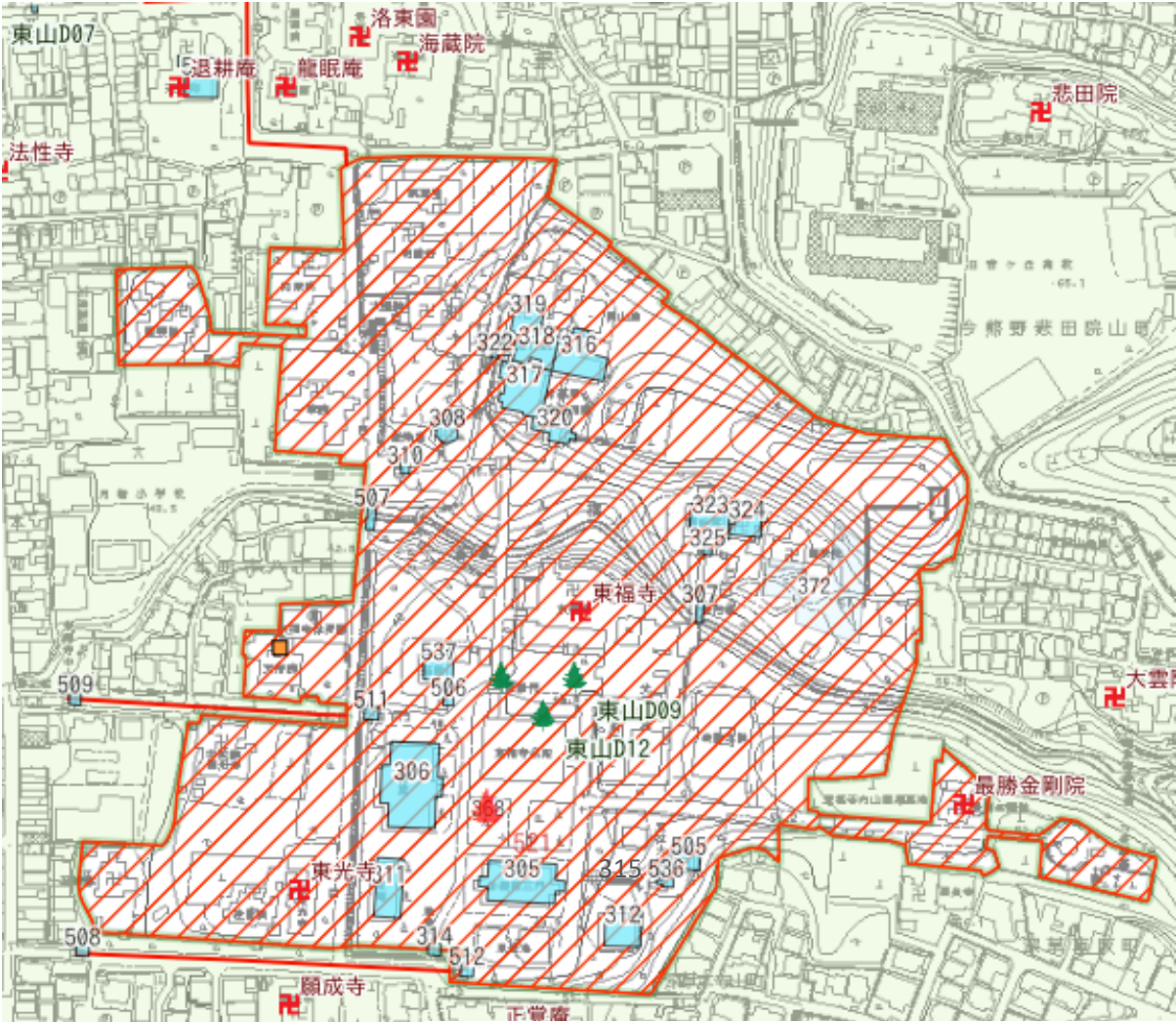
東山連峰月輪山山麓に位置し、南北に走る東大路と東西の九条通の接合する辺りから南、広大な寺域に伽藍・塔頭が営まれている。山号恵日山、臨済宗東福寺派本山。参道はかつて境内であったとみられ、沿道の樹木や塔頭等現在もかつての景観を残している。¹⁴⁾



花洛名勝図会「恵日山東福禅寺（東福寺）」（国際日本文化研究センター所蔵）

文化財

国宝	東福寺三門	305	竜吟庵方丈	323		
国指定重要文化財	禅堂（選仏場）	306	偃月橋	307	愛染堂	308
	鐘楼	309	月下門（月華門）	310	東司	311
	浴室	312	二王門	313	六波羅門	314
	十三重塔	315	常楽庵 開山堂・昭堂	316	常楽庵 客殿（普門院）	317
	常楽庵 塔司寮（書院）	318	常楽庵 庫裏	319	常楽庵 楼門	320
	常楽庵 鐘楼	321	常楽庵裏門	322	竜吟庵庫裏	324
	竜吟庵表門	325				
府指定文化財	大鐘楼	505	殿鐘楼	506	臥雲橋	507
	南大門	508	中大門	509	北大門	510
	日下門	511	勅使門	512	五社成就宮	536
	経蔵	537				
国指定名勝	本坊庭園	372				



※ 詳しい地図情報は、京都市景観情報共有システムをご確認ください。

【凡例】

視点場（境内）

視点場（参道等）

近景デザイン保全区域

建造物・庭園

景観重要建造物・歴史的風致形成建造物

歴史的意匠建造物

界わい景観建造物

京を彩る建物や庭園

文化財（建築物）

文化財（史跡・名称）

国土地理院社寺データ等

樹木

天然記念物

保存樹・区民の誇りの木

※ 国土地理院の数値地図2、500に掲載の社寺データと、平成15・16年発行のゼンリン住宅地図の1、000m2以上の社寺データ

東福寺周辺エリア

5

東福寺境内の歴史的資産と守りたい眺め(2)

[国宝]



東福三門※



竜吟庵方丈※

[国指定重要文化財]



禅堂（選仏場）※



偃月橋



鐘楼※



月下門（月華門）※

[府指定文化財]



大鐘楼※



殿鐘楼※



中大門※



北大門※



臥雲橋※



南大門※



五社成就宮※



経蔵※



仁王門※



六波羅門※



東司※



浴室※



日下門※



勅使門※



本坊庭園※

[国指定名勝]



常楽庵客殿（普門院）※



常楽庵塔司寮（書院）※



十三重塔※



常楽庵開山堂・昭堂※



常楽庵鐘楼※



常楽庵裏門※



常楽庵庫裏※



常楽庵楼門※



竜吟庵庫裏※



竜吟庵表門※

■ 樹木

イロハモミジ
東山D09

[区民の誇りの木]

広大な境内に多くの塔頭が建ち並ぶ東福寺は、様々な種類のモミジが育ち、古来より紅葉の名所として知られています。紅葉の秋には、参道に架かる鳥居橋の周辺から境内地にかけてイロハモミジが鮮やかに色づき、多くの人々を魅了します。



トウカエデ（臥雲橋南詰）
東山D10

[区民の誇りの木]

洗玉澗溪谷のモミジで通天橋からはもちろん、下流の臥雲橋からもよく見えます。



イブキ（三門）
▲17/東山D11

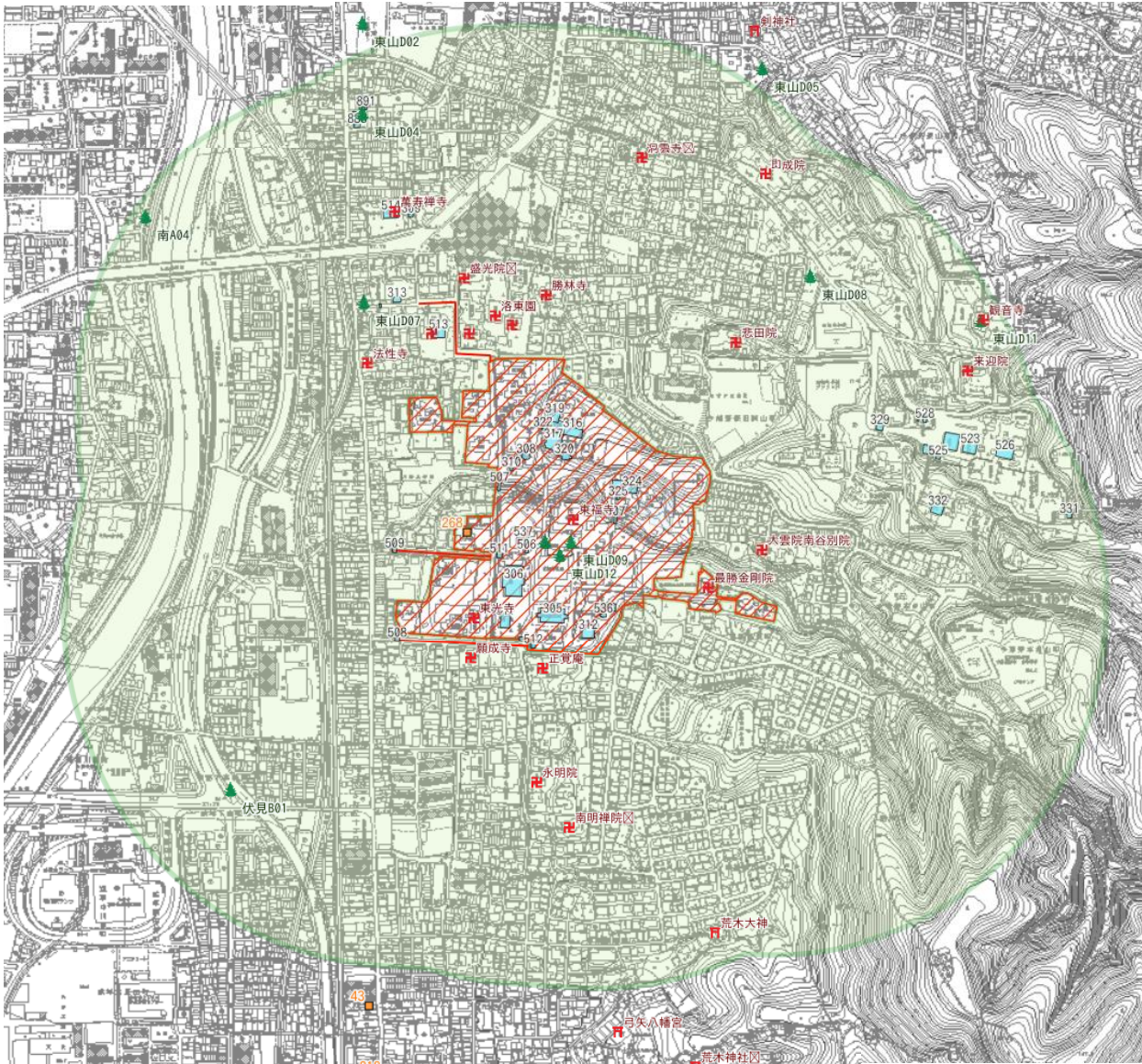
[天然記念物/区民の誇りの木]

東福寺の開山（13世紀）とゆかりの深い木で、江戸期の名所図会には開山国師が宋国（中国）から携えてきたと記載されている古樹です。



※：（画像）京都府地図情報統合型地理情報システム（GIS）

東福寺周辺の歴史的資産(1)



※ 詳しい地図情報は、京都市景観情報共有システムをご確認ください。

【凡例】

	視点場（境内）		建造物・庭園		樹木
	視点場（参道等）		景観重要建造物・歴史的風致形成建造物		天然記念物
	近景デザイン保全区域		歴史的意匠建造物		保存樹・区民の誇りの木
	特に着目する通り		界わり景観建造物		
	明治25年以前から存在する市街地		京を彩る建物や庭園		
	界わり景観整備地区		文化財（建築物）		
			文化財（史跡・名称）		

 国土地理院社寺データ等 ※

※ 国土地理院の数値地図2、500に掲載の社寺データと、平成15・16年発行のゼンリン住宅地図の1、000m²以上の社寺データ

東福寺 塔頭

現存する塔頭は25ヵ所であり、これらを中心とした緑や擁壁、土塀などが特徴的な景観を形成している。

海蔵院	龍眠庵	靈源院	盛光院	萬寿寺（萬寿禪寺）
勝林寺	栗棘庵	退耕庵	大機院	善慧院
同聚院	靈雲院	一華院	天得院	東光寺
桂昌院	莊巖院	芬陀院	正覺庵	願成寺
永明院	光明院	南明院	即宗院	竜吟庵

退耕庵



退耕庵



客殿※
府指定文化財



即宗院



庭園
市指定名勝
(国宝法然上人絵伝掲載)

海蔵院末、正平元年の建立、開山は東福寺四三世性海靈見（坊目誌）、本尊千手観音。¹⁷⁾

嘉慶元年（1387）薩摩藩島津氏久の建立、東福寺五四世剛中を開山とする（坊目誌）。¹⁸⁾ 近年では、西郷隆盛公が清水寺月照上人と倒幕の密議を重ねた場所であり、篤姫も徳川お腰入れの際に立ち寄っている。

萬壽寺(萬壽禪寺)



客殿※
府登録文化財

白河天皇の里内裏の一つである六条内裏（現京都市下京区）に、承徳元年（1097）皇女郁芳門院媿内親王の遺宮を仏寺に改め、六条御堂と称したのにはじまる（「中右記」承徳元年十月十四日条）。「京城萬寿禪寺記」によれば、正嘉年中（1257－59）六条御堂で浄土教を修していた十地上人覚空（爾一）とその弟子東山湛照（慈一宝覺）とが、門爾弁円に皈依して禅宗に改宗し、六条御堂を萬寿禪寺と改称した。弘長元年（1261）一月湛鐘が開堂、同三月関白藤原は和泉国長滝包富荘を覚空に寄進して、覚空・湛照を両開山となし、文永9年（1272）11月に供養を修した。至徳3年（1386）京都五山に列せられたが（和漢禪刹次第）、永享6年（1434）2月洛中大火に類焼した（如是院年代記）。

天正年間（1573－86）東福寺山内の三聖寺に寺地を移した。
当寺が三聖寺に寺基を移した際は両寺号を併称したが、明治維新後萬寿寺を専称した。¹⁹⁾

東福寺周辺の歴史的資産(2)

■ 泉涌寺

[重要文化財(仏殿、大門、開山堂等)等]

東山連峰月輪山山麓にあたり、大門・本堂仏殿・舍利殿がともに西面する。その奥に御座所・小方丈・霊明殿・庫裏などが所在する。泉山と号し、真言宗泉涌寺派本山。古くより皇室の菩提所にあたる香華院として、御寺(みてら)と尊称された。本尊は仏殿の釈迦如来。観音堂の観音菩薩は楊貴妃観音とよばれ、二世湛海が入宋の際に入手したと伝える。洛陽三十三ヵ所観音二〇番札所。泉涌寺総門に至る泉涌寺道には、泉涌寺塔頭をはじめ寺社が点在し、一連の景観を創出している。²⁰⁾



無縫塔 2基※
重文



仏殿※
重文



大門※
重文



開山塔※
重文



開山堂※
重文



舍利殿※
府指定文化財



浴室※
府指定文化財



泉涌水屋形※
府指定文化財



御座所※
府指定文化財



鎮守社本殿※
府指定文化財



鎮守社本殿※
府指定文化財

■ 法性寺



京都市東山区から伏見区にかけて所在した寺院。旧跡は正安元年(1299)正月30日と裏書する法性寺御領山指図(田中家蔵)で、かなり推測できる。すなわち北は法性寺大路(現伏見海道)一の橋(泉涌寺道)、南は稻荷山、西は鴨川、東は東山山麓という広大な地域である。これは藤原氏の氏寺として何代にもわたり増建された子院などを含む寺域で一部は現在の東福寺寺域と重なる。²¹⁾

現在、法性寺は本町通(伏見街道)の東側にあり、寺門・本堂と西面して街道に向かう。旧法性寺の寺名を継ぐもので、本尊(高さ約1メートル、一木彫)は春日の作で旧法性寺の遺仏とされ、国宝に指定されている。洛陽三十三ヵ所観音の一に数えられてきた。²²⁾

■ 新熊野神社

[市指定文化財(本殿)]



本殿
市指定文化財

東山区今熊野榎ノ森町にある神社。祭神は伊弉冊命。永暦元年(1160)後白河院が紀州熊野権現本宮の祭神を勧請して法住寺殿の鎮守とし、平清盛が社殿を造営したのが始まりという。²³⁾



クスノキ ▲5、東山D01

新熊野神社は後白河上皇が熊野から神霊を迎えて造営した神社で、これが「今熊野」の地名の由来となっています。このクスノキは上皇のお手植えと伝えられ、雄大な葉張りが特徴の巨木で、東大路通からもよく見えます。

■ 瀧尾神社

[市指定文化財(本殿・幣殿・拝所等)]



本殿
市指定文化財

本殿・拝殿ともに南面して、鳥居は五葉の辻子に向かう。別に西面して本町十一丁目に向く鳥居がある。「拾遺都名所図会」に「滝尾社 大和大路南爪にあり。祭神藤社の属社なり」とみえる。すなわち藤森神社(現京都市伏見区)に属し、その御旅所でもある。祭神は大国主命。祭日が六月二二日。旧村社。創始は明らかではないが「京都府地誌」によれば、現在地に移ったのは天正一四年(1586)一〇月、豊臣秀吉の方広寺(現東山区)大仏建立に伴ってのことという。明治二年の絵図にも描かれ、本町通の古くからの景観を引き継いでいる。²⁴⁾



クスノキ 東山D04

本殿の西側にあります。本殿は修復工事中ですが、元気に育っています。

東福寺周辺のその他の歴史的資産

■ 樹木等

エノキ：
泉涌寺五葉ノ辻町

 東山D03



謡曲『夢の浮橋』のゆかりの地。かつてはここに川が流れていて、エノキは、その川に架かる橋のたもとにありました。現在は暗渠（あんきょ）化され、当時の面影はありません。

エノキ：
東福寺交番裏

 東山D07



東福寺東参道の入口にあり、本町通からもよく見えます。

ソメイヨシノ：
月輪中学校

 東山D08



ちびっこ広場のシンボルのような桜の大木です。春先の満開となった姿は京阪電車の車窓からもよく見え、地域の人々にも深い印象を与えています。

イロハモミジ：
今熊野観音寺

 東山D09



参道や境内に数多く植えられています。秋は黄色や赤に紅葉し訪れる人を楽しませます。

ソメイヨシノ：
鴨川

 南A04



河川敷に桜色の帯ができる春、奈良線を遠くに望む九条橋からの眺めには趣があります。

ソメイヨシノ：
琵琶湖湖水（墨染）

 伏見B01



琵琶湖疏水に沿うサクラ並木では、春の花、夏の緑が、疏水沿いの景観をつくっています。

景観の特性と形成方針（京都市景観計画 抜粋・要約）

東山風致地区

【良好な景観の形成に関する方針】

- 泉涌寺参道の緑の濃さや奥行き感等が印象的な沿道景観や山ろくの和風感漂う住宅地



1) 東福寺参道



2) 泉涌寺参道



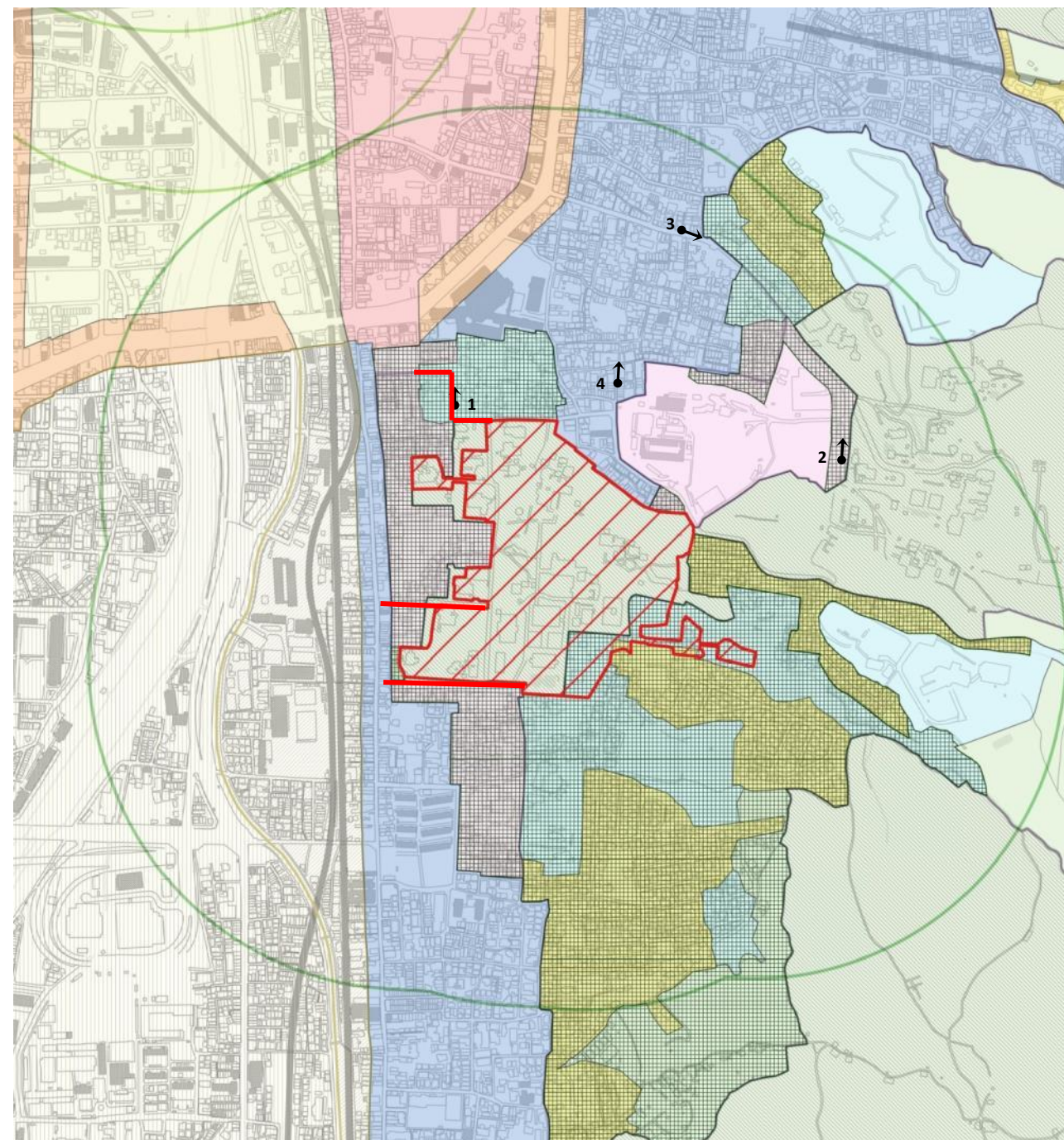
3) 泉涌寺参道



4) 東福寺北側の住宅地
開発

山ろく型美観地区

阿弥陀ヶ峰の南ろくを東に抜ける日吉南道と東大路通、及び東福寺の北側に囲まれた東山の山ろくに位置する今熊野・泉涌寺地域には、泉涌寺や東福寺等の寺院と学校等の文教施設が立地し、起伏に富む地形により独特の景観を形成している。これらの寺院の境内や学校等などに至る道路からは、東山を身近に感じることができる場所がいくつもある。こうした緑豊かな景観特性の継承を、この地域の景観形成の基本方針とする。
このため、緑豊かな景観の特徴を生かして、積極的に中高木の樹木の保全と植樹に努める。



【凡例】

眺望景観保全区域

- 視点場（境内）
- 視点場（参道等）
- 近景デザイン保全区域

風致地区

- 風致地区第1種地域
- 風致地区第2種地域
- 風致地区第3種地域
- 風致地区第4種地域
- 風致地区第5種地域
- 風致特別修景地区

景観地区

- 山ろく型美観地区
- 山並み背景型美観地区
- 岸辺型美観地区
- 旧市街地型美観地区
- 歴史遺産型美観地区 一般地区
- 歴史遺産型美観地区 歴史的景観保全修景地区
- 歴史遺産型美観地区 界わい景観整備地区
- 重要界わい景観整備地域
- 沿道型美観地区
- 市街地型美観形成地区
- 沿道型美観形成地区

建造物修景地区

- 山ろく型建造物修景地区
- 山並み背景型建造物修景地区
- 岸辺型建造物修景地区
- 町並み型建造物修景地区

その他

- 伝統的建造物群保存地区
- 歴史的風土保存地区
- 歴史的風土特別保存区域

※ 詳しくは、京都市景観情報共有システムを御確認ください。

1) 京都市 編『史料 京都の歴史第10巻 東山区』平凡社. 1987. p.576
2) 平凡社『寺院神社大事典 1 京都・山城』平凡社. 1997. p.520
3) 前掲1). p.544
4) 前掲1). p.576
5) 前掲2). p.520
6) 下中邦彦『日本歴史地名大系第27巻 京都市の地名』平凡社. 1979. p.259
7) 前掲1). p.576
8) 佐和 隆研 ほか編集『京都大事典』淡交社. 1984. p.845
9) 前掲6). p.279
10) 前掲1). p.37
11) 前掲6). p.279
12) 前掲6). p.290
13) 前掲1). p.544
14) 前掲2). p.517
15) 前掲2). p.521
16) 前掲2). p.521
17) 前掲2). p.522
18) 前掲2). p.522
19) 前掲2). p.523
20) 前掲2). p.418
21) 前掲2). p.635
22) 前掲2). p.638
23) 前掲8). p.63
24) 前掲2). p.461